

要だと思っており、昨年 11 月の広報では認知症特集を組ませていただきました。ただやはり重要なのは、ケアプラザ等、地域の身近なところに気軽に相談ができるように対応していくということだと思いますので、広報だけでなく、現場のお一人おひとりの感性を少し高めていきながら情報発信をしていきたいと思っています。

大桑議員：栄区内のまちづくりということで、環状 4 号線の商店街のにぎわいづくりや、本郷台駅周辺、上郷東地区でのまちづくり、旧庄戸中学校でのイベントなど、新規事業も含めて動き出すと思うが、全体的な考え方があれば教えていただきたい。

尾仲区長：まちづくり全体が、今まで各先輩たちが営々とやってきたことが少しずつ花を開きそうになってきています。しかしながら、過去のままでいいものと、若干考えなければならぬものもあつたりしますので、議員団会議や個別に先生方とも意見交換等し、区民全体への発信ということを大切にしながら実施していきたいと思っています。

大桑議員：本郷台のまちづくりについて、ずっと議論をしてきているが、なかなか区民に伝わっていなかったり、売却をするにあたって色々な話が聞こえてくる。是非丁寧に説明をするようにしていただきたい。

石渡議員：いくつかある開発が 28 年度を中心になると思うが、職場の体制が一番懸念される。これから更に話が進んでいくともっと色々なことが起こる可能性があるが、個別の局を中心とした事業のために区役所の体制を強化するということはないのか。

尾仲区長：課の中での体制をいかに横断的にやるか、また、全員がフル稼働できるような業務分担の見直しを行うなどして対応していくしかないと思っています。現場が疲弊しないよう、人事にそういった話は申し上げながらやっていきたいとは思っています。

石渡議員：対応しなければならないことがしっかり達成できるような体制を整備するようしてもらいたい。

生活困窮者への対応は難しいと思うが、どのように進めていくのか。

尾仲区長：27 年度から生活困窮者自立支援制度が始まり、生活支援課への

相談件数は増えていますが、まだ受け身の状態であるところがあります。先日、笠間で白骨死体が発見された問題などがあり、早期に発見するためには各職場連携も非常に重要だと思いました。生活困窮者に関する情報を敏感にキャッチをし、民生委員の方々や自治会・町内会の方々にも情報提供しながら、しかるべきところに繋いでいきたいと思っています。28年度からは、従来の受け身から、少し情報が入るネットワークづくりに、力を入れていきたいと思っています。

石渡議員：お年寄りの生活困窮者だけでなく、シングルマザーの方も多いため、この機会に注目し、クローズアップできるようなものも必要だと思うので検討していただきたい。

次に、ごみ屋敷の条例が制定され、本格的に動き出す前にできることをやっておく必要があると思うが、何か考えていることがあれば教えていただきたい。

尾仲区長：今栄区内で通称ごみ屋敷と呼ばれている件数は3件ございます。それぞれが抱えている背景は異なりますが、強制執行をすることが目的ではないので、高齢・障害支援課や資源循環局などとも連携をしながら、なぜごみ屋敷になってしまったのかというところに手を差し向け、丁寧に対応していきたいと思っています。また、今後も地域のお力も借りながら、できるだけ相手の方が自らやれることに支援をしていくことに力を注いでいきたいと思っています。

石渡議員：5年前ぐらいに、3件あるごみ屋敷のうちの1件に対応したことがあったが、心の問題もあると感じた。一朝一夕にできる話ではないとは思いますが、みんなで力を合わせて解決できればと思っているので、今のうちからできることは進めていただきたい。

興石議員：石渡議員から区役所の体制強化について意見があったが、大きな開発を同時期に抱えている中で、個人への負荷がかかりすぎると、職場のみなさんの疲弊も進んでしまうので、それを未然に防ぐ意味でも、是非、栄区らしい区役所体制づくりを行って欲しい。

尾仲区長：開発が動いている中で、局に任せきりにするのではなく、区役所の職員自身が現場に足を運び、地元の方の声を局に伝えたり

しています。栄区らしい仕事の仕方についてはこれから考えていきたいと思います。

興石議員：建築局はモデル地区として、4か所設定した持続可能な住宅地モデル再生プロジェクトについて全区展開していこうとしているが、栄区で先行して始まった上郷東連合のプロジェクトとの兼ね合いはどのようになっているのか教えていただきたい。

中山区政推進課長

：建築局のモデル事業も並行して実施しており、栄区も会議などに出席し、現状などお話をし、1つのモデルとして取り上げていくということになっています。

興石議員：建築局の全区展開の中の一部と捉えていいのか。

中山区政推進課長：はい。栄区の取組も全区に広げていきたいということで話をしております。

尾仲区長：建築局がモデル地区として決めた4か所は、どちらかというところが主導で決めたという経緯がありますが、上郷東地区につきましては、栄区から提案をしております。

興石議員：栄区の都市計画マスタープランは一旦完了し、しばらく検討のない年度に入っているため、全体の都市計画マスタープランとのタイムラグが生じていて、持続可能な住宅地モデル再生プロジェクトとの連動がとれていないのではないかと懸念される。

尾仲区長：確かに上郷東地区や横浜環状南線の関連については取り扱われていませんが、この間に社会情勢の変化に対してある一定の判断ができる時期にきたのではないかと考えています。今回のまちづくりをきっかけに、色々なものを積み上げ、都市マスタープランやまちづくり行動計画に活かしていきたいと思います。

興石議員：途中で栄区の都市マスタープランを改定することはないのか。

尾仲区長：今の間に色々なものを少し積み上げていき、最終的に3～4年後につくる都市マスタープランに反映させる形で大きく見直したいと考えています。

興石議員：上郷東連合は金沢区と、田谷地区は戸塚区との連携を無視しては進まないで、隣接区との兼ね合いについても考えながら進めていただきたい。

次に、花いっぱい魅力づくりについては、全国都市緑化よこは

まフェアにあわせて実施していくと思うが、ガーデンネックレスから外れている郊外部の緑のあり方については、区から要望を局に出すという流れでよいのか。

中山区政推進課長

：概ね2か年で各区が全国市緑化よこはまフェアを盛り上げるということで、それぞれの区から要望を出しているところです。

興石議員：単純に花を植えるのではなく、高齢化が進むと担い手の問題もでてくるので、公園愛護会などを通じて、設備の問題や水やりの問題などがスムーズにいくように、高齢者支援とも連携しながら、何が必要なのか予測し、先手を打っていくことが必要だと思うが、現状について教えていただきたい。

尾仲区長：まだ高齢者施策の部分との連携は十分にはできてはいませんが、花を通じた世代間交流はできているという話はよく聞きます。財源的には2か年の全国都市緑化よこはまフェアの予算をカンフル剤にしつつ、緑税の使い道の一つの要素になってくると思うので、積み上げたノウハウをみどりアップ事業や公園事業などに活かしていければと思っています。

興石議員：緑税の使われ方というのは、他の区からも注目されていると思うので、地域に残っていくやり方を十分に考えていただきたい。

次に、セーフコミュニティの認知度について、いつを目安に50%を目指すのか。

神山副区長：本審査、再認証を受ける平成30年度を目指しています。再認証を受けている十和田市が40%後半ということなので、それをモデルにして頑張っていきたいと思っています。

興石議員：海外にも視野を広げて認証都市との横連携を行ってもらいたい。日本ほど安全安心な国は世界中を見てもないと実感をもって暮らしているので、アジアの認証センターを栄区にもって来ようというような勢いでやっていただきたい。

尾仲区長：セーフコミュニティに対する思い入れを区民全体で上げていくということが何よりも出発であり、セーフコミュニティ都市ということがプライドに思える環境ができれば、可能性もでてくると思います。日本としてセーフコミュニティを大切にするということも並行して行うためにも、まず認知度をあげるとい

うことに取り組んでいきたいと思ひます。

興石議員：今回認知度が2%下がってしまったということで、かなり厳しい状況だと感じている。外からの認知度を上げていくためには発信力が必要だと思う。情報を収集・分析し、それを区としてどう使っていくか考えることはどの課が担っているのか。

尾仲区長：部門ごとにデータを持っているという状況ですが、セーフコミュニティについては、区政推進課が全てのデータを収集し定量化しています。

興石議員：区民活動との連動は必ず必要だが、経済活動の視点というものも必要だと思う。ボランティアを中心とした地域活動の支援と別の発想をもって、民業を活性化するという視点についても持っていたきたい。予算案で、区民活動支援事業38万円とあるが、家賃は含まれているのか。また、家賃は区の予算で支出しているのか。

神山副区長：含まれていません。自主企画事業費ではなく、一般管理費の中の区民活動支援センター管理運営費から支出します。

興石議員：これから本郷台周辺のまちづくりを進める中で区民活動の拠点という視点は重要になるが、公共の施設を駅前に集中させる必要があるかということについては改めて議論していく必要がある。

次に、生活困窮について、栄区のごみ屋敷3件という件数は他区と比較するとどうなのか。

中山区政推進課長

：市内では90件程度という状況です。多い区だと、磯子区、鶴見区、神奈川区といったような区が10件を超えています。

尾仲区長：ごみ屋敷の定義が何かということがポイントになりますが、地元の方からなんとかして欲しいという声があがった件数が今回定義になっています。

興石議員：解決には細やかな視点が必要だと思うが、他にセーフティネット強化事業の対象となる人たちとのボリューム感と対応できる部署とのバランスだと思うが、そのあたりはどうなのか。

多田福祉保健センター長

：生活困窮者の自立支援制度の関係ですと、4月から生活支援課で業務を行っており、相談件数は124件ありました。その中で

相談のみで終わることなく福祉の制度利用に繋がったものが42件で、一定の成果はあげているという状況です。ごみ屋敷については様々なケースがあり、福祉的対応が求められる場合や精神的な要素が絡んでいる場合もありますので、窓口は1本にしながらも、区役所全体で対応していこうと考えています。

興石議員：栄区にはボランティア団体がたくさんあるが、担い手の問題や、やること自体に先行き不透明な団体が最近増えてきているので、ある程度はつきりしていて、比較的ボリュームが少ない課題を提示し、その課題を解決してくれるボランティア団体が立ち上がるのを支援していく必要があると思う。社会福祉協議会を通じて地域の団体との共同作業というようなことを働きかけるようなことはあるのか。

多田福祉保健センター長

：担当部長が社会福祉協議会の理事会等に出席し、その中でボランティアの団体の育成・支援やあり方などについて議論しています。

興石議員：課題解決を中心とした団体がきちんと立ち上がるような仕組みを仕掛けていく必要があると思う。

尾仲区長：約30年前ではございますが訪問の家という共創の取組がでてきた土壌がありますので、地域福祉保健計画のみならず、福祉課題といったことを区民の皆様にご提起しながら共創の土壌をつくっていきたいと思っています。

興石議員：栄区地域ネットワーク見守り事業の協力事業者の拡大についてですが、これは健康福祉局の見守り事業の中の仕事とは別に区の独自予算を組んで協力事業者を拡大するということですか。

尾仲区長：区の独自予算で拡大していきます。

興石議員：何件ぐらいを目標としているのか。

前田福祉保健センター担当部長

：協力事業者を拡大するというので今事業を進めています。目標件数についてはこれから考えたいと思います。

石渡議員：災害のボランティアの関係で、最近私も何人か有志で集まって活動を進めているが、大規模災害が起こってから72時間の間に何ができるかが一番大事になってくる。東日本大震災は午後3時ぐらいに発生したため、ほとんど若い人たちはいなかった

た。例えば、昼間に区内にいる自営業者や明治学院大学の学生さんたちが、地域の中で災害が起こった時に最初の3日間、72時間の間に人助けができるようなスキルを身につけておくというようなことが必要になってくると思うが、何か考えがあれば聞かせていただきたい。

尾仲区長：災害時要援護者の取組は、今自治会・町内会のみで進んでいるところがありますが、商店会や企業の方から、地域への貢献ができないかというようなお話をいただいています。決められたルール以外にどうやって新しい輪をつくれるかということだと思いますので、要援護者避難支援や特別避難場所の議論の中で考えていければと思っています。

石渡議員：災害時は気が動転すると思うので、普段から災害が起こったら自分が何をするかということをおあらかじめ考えておくことが大事だと思う。

栄区の特産品や名物が作れないかと思っている。区内の商店やものづくりをしている人にナンバー1ではなくてオンリー1のものを作ってもらうような取組ができないか。

尾仲区長：27年度に鎌倉女子大学の学生さんがメニューをつくって何かできないかということで商店会にその話を持ちかけたところ、多くの店舗から手が挙がり、その中から3店舗にお願いをしました。その際、各店舗の何か売りになるものを出そうという意識がとても高いと感じましたので、意欲がある店舗とうまくタイアップして製品作り、メニュー作りに繋げていければと思っています。

石渡議員：地域の一体化に繋がったりウリになるような取組だと思うので参考にさせていただきたい。

大桑議員：放課後の子どもたちの地域支援事業について、こども青少年局や健康福祉局の事業との違いを教えてください。

尾仲区長：栄区独自で行いたいと思っています。昨年起きた多摩川事件を受けて、民生委員や自治会長が、自分たちの周りでこのような事件が起きたらどうするかというようなことをかなり真剣に話していました。栄区ではこのような事件を絶対に起こさせないというご意見がある一方、やっぱり止められないんじゃないかというご意見もあり、学校とタイアップして何かできないか

という話がありました。現時点でこのモデルは豊田地区を想定していますが、それぞれの資源をうまく活用しながら進めていければと思っています。

大桑議員：どのようなイメージの事業なのか。

尾仲区長：中学生ぐらいになるとなかなか情報がうまく伝わらないという状況がありますので、地域全体で見守りをしていければと思っています。飯島中学校などはあいさつ運動を行ったりしていますので、そういったネットワークともうまく重ねながら、非行に走る子どもだけでなく、引きこもってしまう子どもにも早く地域が声をかけるような体制づくりができないかということで予算計上しました。

大桑議員：是非今後も経過を教えてください。

美化活動の推進について、ポイ捨てや歩きたばこについて区として何か実施していますか。ごみの清掃などは市の事業ですか。

小松城振興課資源化推進担当課長

：本郷台駅前が美化活動重点地区になっており、区で雇用している美化活動推進員が中心に不法投棄やポイ捨てがあった場合は清掃などを行っています。

大桑議員：注意などを行っている方がいたが、清掃がメインなのか。

小松城振興課資源化推進担当課長

：清掃だけでなく、ポイ捨てしないでくださいという声かけも行っていきます。

興石議員：関内駅前のように栄区で喫煙禁止エリアの指定はできないのか。また、喫煙コーナーを設置してはどうか。

小松城振興課資源化推進担当課長

：各区にある美化推進重点地区とは別に、資源循環局が喫煙禁止地区を指定しており喫煙場所を設置しています。

興石議員：栄区の玄関口である本郷台駅前で喫煙している人がたむろしていたり、吸殻があつたりというのは、セーフコミュニティ都市としても恥ずかしいことだと思う。局の事業として尊重しながらも区独自の方法が何かとれないのか是非検討していただきたい。

尾仲区長：セーフコミュニティ都市として禁煙運動や受動喫煙防止の様な

	<p>ことをもって行った方がいいという意見と、喫煙する場所を用意すべきではないかという意見の2通りがあります。どのように対応することが区民に一番受け入れやすいかということも含めて、今後検討していきます。</p> <p>興石議員：最後に、議事録についてですが、座長に一任させていただいてよろしいですか。</p> <p>石渡議員・大桑議員 ：了承。</p>
備 考	